

アジ研 ワールド・トレンド

2

発展途上国の明日を展望する分析情報誌

2009

第161号

特集● **世界は何を食べているか—第三世界の主食** フォト・エッセイ● **明暗を分ける歴史遺産**





——グアテマラ、マヤの歴史を織る人びと——

サン・ファン・アティタン

撮影・解説：小林グレイ愛子、タペストリー作家

2200メートルあまりの高地にある村、サン・ファン・アティタンは数少ない男性の民族衣装が残っているところ。父と息子と思えるこの2人は、カビシャイと呼ばれる黒羊の毛織物の巻頭衣を着ている。脇縫いなしで手織りの帯を締め、細身の袖に当たる部分は飾りのように肩に載せるだけである。

襟と袖口、帯には同じ系統の色で織られた縫い取り織りの柄で統一されている。以前は朱色に近い赤が主流で黄色、みどりなどの柄が入っていたが、今はピンク、紫、青などの色の上に、細かい柄が入っているものが多い。

手織りの白のパンツにリボンを巻いた帽子の男性たちの姿は、女性よりおしゃれで素敵に見える村である。